

- 1 題材名 はくにのってリズムをうとう
- 2 題材設定の背景

題材観

本題材では、音楽の様々なリズムを感じ取ったり表現したりするための根幹となる拍に焦点を当て、リズムの違いやまとまりを感じ取りながら、音楽づくりを通して拍やリズムに対する感覚を養っていく。歌うこと、打楽器を演奏すること、聴くこと、体の動きを使って表現すること等のあらゆる活動を通して、リズムの違いを生かして表現することに思いをもったり、リズムと拍とのかかわりから感じる曲の楽しさ等を見出して、音楽を鑑賞したりすることをねらいとしている。リズムや拍に焦点を当てた音楽づくりの学習では、言葉をリズムに当てはめて唱える面白さや、それを友達とつなげて発表する楽しさを味わうことができる題材である。ここでの学習は、2拍子や3拍子の違いを感じ取って歌ったり、歌に合わせてリズム伴奏をしたりする力を養う学習へつながっていく。

児童観

子供たちはこれまでに、生活経験の中で自分の好きな歌を歌ったり、曲に合わせて体を動かしたりする活動を通して、リズムを感じながら歌うことや、歌に合わせて体を動かすことの楽しさを味わってきた。 「うたっておどってなかよくなるう」の学習では、曲を聴いて表現したい動きを考え、それをペアや学級のみなどと伝え合いながら活動する様子が見られた。「はくをかんじとろう」の学習では、「さんぽ」の曲想に合った声の出し方を工夫したり、拍に合わせて手拍子のリズムを工夫したりする等、曲を注意深く聴き楽しみながら活動に取り組む姿があった。しかし、中には自分の表したい思いがあってもそれを表出することが難しかったり、体を動かすことだけに目がいき、拍に合わせて体を動かすことが難しかったりする子供もいる。友達との協働的な学びを通して、より音楽に合わせて自分の思いを表現できるようにしていきたい。

集団観

指導観

拍の流れに合わせてリズムやフレーズを表現したり鑑賞したりする能力を高めるためには、周りの演奏をよく聴き、音楽を形づくっている要素である拍に気を付けながら、繰り返しリズム唱やリズム打ちに親しむことが効果的である。そこで、指導にあたっては、次の3点を意識する。1点目は、常時活動として、名前リレーやリズム模倣遊びを取り入れ、拍の流れを感じ取りながらリズムを演奏する楽しさを味わえるようにする。2点目は、様々なリズムに触れる場面において、絵譜や言葉で示した譜面を用いて視覚的に捉えさせることで、リズムを中心とした音楽を形づくっている要素と、そのよさや面白さを感じ取ることができるようにする。3点目は、音楽づくりの場面において、子供たちが学習してきたことを生かして、表現したいものを表すことができるように、自分たちの思いに合ったリズムや表現の仕方を考えさせる活動を取り入れていく。

3 題材の目標及び計画 (全9時間)

■題材の目標

音楽の仕組みに触れたり簡単な音楽をつくったりすることを通して、リズムの違いを聴き取りそれらによって生まれる面白さに気付くとともに、聴き取ったことと感じ取ったこととのかかわりについて考え、思いや意図をもって音楽表現することができるようにする。

■題材の計画

- 第1次 いろいろなリズムにふれよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・6時間
- 第2次 ことばに合わせてリズムをつくろう・・・・・・・・・・・・2時間 (本時2/2)
- 第3次 拍にのって歌おう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
リズムやフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さ等とかかわらせて気付き、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて簡単な音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。	リズムの違いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととのかかわりについて考え、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。	リズムの違いに興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

5 本時の学習

■目標 グループで様々なリズムを試す活動を通して、リズムの違いを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、お気に入りのリズムを見つけて選んだ言葉を表現する。

■学習過程 ※(全)(小)(個):学習形態(全:全体の場 小:小集団 個:個人)㊟:留意点 ㊠:評価の観点(方法)

学習事項	児童の活動	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 前時までの活動をふり振り返りながら、リズム遊びをしてリズムがつながっていく面白さを感じる。 ・大きな声で名前を呼ばれたから、元気よくお返事したよ。 ・お手本の音をよく聴いて、まねしてリズムをたたいたよ。	(1) これまで常時活動として行ってきたリズムリレーやリズム打ちを取り入れることで、拍の流れに合わせてリズムを刻む楽しさや、みんなで音楽をつくる楽しさに気付くことができるようにする。	(全) これまで大切にしてきた視点を確認する。
2. 学習課題の設定	(2) 学習課題を設定する。 じぶんがえらんだことばにあう、おきにいのリズムをみつけよう。	(2) 学習課題を全体で設定する。 ・前時の活動を活かして、本時では自分が選んだ言葉を様々なリズムで表現するという活動内容を、全体で共有する。	(全) 学級全体で学習課題を確認する。
3. 学習課題の追求	(3) 選んだ言葉に合うリズムを見付けるために、グループで様々なリズムを試したり、リズムをつなげたりする。 ・少し早く手をたたいてみると、面白いリズムができた。 ・間にお休みをいれたら、同じ言葉でもリズムが違って楽しい感じがする。 ・手拍子だけではなくて、一つだけ足踏みを入れてみようかな。 (4) 作品を発表し、聴き合う。 ・自分は手拍子だけだったけれど、友達は体を使って音を出していたから、同じリズムでも違う音楽に聴こえた。 ・みんなで音をつなげてみたら、拍にのって楽しい感じがした。	(3) グループで対話をしながら様々な表現方法を試すことを通して、自分のお気に入りのリズムを見付けることができるようにする。 ㊟自分が選んだ言葉をリズムで表現できているかを、一人一人が確かめながら活動できるように、場の設定を工夫し時間を十分に確保する。 ㊠ グループで様々なリズムを試す活動を通して、リズムの違いを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、お気に入りのリズムを見つけて選んだ言葉を表現している。(行動観察・発言) (4) お互いに作った音を聴き合い、気付いたことを交流する場を設定することで、自分と友達との表現の仕方の違いや共通点を見付けながら鑑賞できるようにする。 ㊟鑑賞中の子供たち同士の眩みや発言を拾い価値付けることで、お互いの音楽を受け入れ合いながら温かい雰囲気の中で聴き合うことができるようにする。	(個) ⇨ (小) 個人で考えたり、友達のアイデアに触れたりしながら、思いや意図にあった音を見付けることができるようにする。 (個) ⇨ (全) 友達の音楽を鑑賞することで、どのような様子を表しているのか想像しながら聴くことができるようにする。
4. 本時のまとめ	(5) 音楽を聴き合って感じたことや思ったことを伝え合う。 ・同じことばでも、いろいろなリズムや音の出し方があっておもしろかった。	(5) 音楽を聴き合って感じたことを伝え合う場を設定することで、様々な表現の仕方があることに気付くことができるようにする。	(全) 学びを全体で共有し、次時への意欲につなげる。